



南木曾中学校・町・教育委員会で、中学2年生を対象に性教育の授業の一環として、乳幼児託児体験事業を実施しました。事前学習で赤ちゃんの抱き方や妊婦体験、子育て中の妊婦さんである場作さんからの話を聞きました。

そして、実際に12月25日の離乳食・幼児食講習会の際に乳幼児の託児を体験しました。お母さんから離された赤ちゃん達はぐずぐず泣いたり大変でしたが、必死にあやしたり話し掛けたりと、子どもと関わりとう一生懸命な中学生達の姿が見られました。

1月30日には、「いのちの現場から、中学生に伝えたいこと」と題して、木曾病院産婦人科 吉岡郁郎医師の講話があり、お互いを理解しあうためにコミュニケーションの大切さを話され、子ども達は熱心に聞いていました。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

ちいさな「いのち」に触れて

— 思春期の託児体験事業 —

中学生の感想

「事前学習から」

- (妊婦体験を見て) お腹が大きくなると苦労することがいっぱいあるなあ、と思った。
- 僕のお母さんはあんなに重い思いをして大変だったんだと思った。母に感謝したい。
- (妊婦さんのお話を聞いて) とても大変そうなのに、さらに一人目・二人目の子を抱っこしたりするなんて、女の人はすごいと思う。
- 赤ちゃんは周りの人に見守られながら生まれるんだなと思った。
- 赤ちゃんを持つお母さんが「大変なことがあったから赤ちゃんが生まれたときの喜びが大きい」と言っていたので、私達もそうやって思われていたんだなと改めて思いました。



「託児体験をして」

- 1時間は長いなあと最初思っていたけど、あつという間でした。泣いてしまつて初めは困ったけど、すぐに泣き止んでくれてよかった。可愛かった。
- 泣き止むのに時間がかかった。やっぱり子どもを育てるのは大変だなと思った。赤ちゃんの体重が重くてとても疲れしました。けど仲良くなれていい体験ができた。
- 人形と違って暖かくてとても柔らかかった。お母さんと離れてさびしくなつたか泣いちゃつた。抱っこしてもおんぶしても、高い高いにしても、いないいないばあにしても、本を読んでも、歌を歌つても泣き止まなくて困った。ちよつとたつてお母さんが来て泣き止んだ。お母さんが一番なんだなあと思った。



お母さん達の感想

○ 口数の少ないお兄さんとお姉さんでしたが、よく遊んでくれ寝かしつけてくれて感心しました。命を大切に；思春期に限らず、もっと小さい頃から色々な形で子ども達に伝えていきたいと思います。

○ 眠いのか泣いてばかりで中学生は大変だったかもしれませんが、頑張つて赤ちゃんをあやしてくれてうれしかったです。男の子がもつと照れたりして嫌々やるかなあと思いましたが、頑張っていたので嬉しかったです。

○ 赤ちゃんは泣いてばかりでしたが、笑顔を絶やさずに精一杯接してくれた中学生。子育ての大変さが伝わるには短い時間でしたが、将来わが子へ愛情を持つためには大切な体験をしてくれたと思います。

